

授業科目名	応用体育剣道(秋)
科目番号	2211273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	鍋山 隆弘
授業概要	剣道具をつけ、相手と駆け引きができる技術を身につけることを目標とし、心身の向上も目指す。
備考	男女別要素(用具) 男女別要素(接触) 男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 実務経験教員 対面 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。
授業計画	剣道に関しては、剣道最高段位八段を有する元日本代表である教員が、その経験を生かして授業を実施する。 第1週 日本剣道形の歴史と礼法 第2週 日本剣道形(太刀の形1本目) 第3週 日本剣道形(太刀の形2本目) 第4週 日本剣道形(太刀の形3本目) 第5週 日本剣道形(太刀の形4本目) 第6週 日本剣道形(太刀の形5本目) 第7週 日本剣道形(太刀の形6本目) 第8週 日本剣道形(太刀の形7本目) 第9週 講義 第10週 日本剣道形(太刀の形1本目から7本目)総仕上げ
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	日本剣道形の映像や資料を、予習復習に活かす。
教材・参考文献・配付資料等	剣道指導要領、剣道講習会資料
オフィスアワー等(連絡先含む)	火曜14:00~17:00 nabeyama.takahiro.gn at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者としします。 レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション、運動習慣、スポーツ文化、倫理観、スポーツマンシップ、礼法

授業科目名	応用体育ゴルフ(秋)
科目番号	2212253
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	白木 仁
授業概要	ゴルフの基本技術を発展させ、ミニコースの実践を通してルール、マナー、パートナーシップ、スポーツマンシップを習得する。また、秋学期中には、近郊ゴルフコースにてコース実習を行う。
備考	経費 打撃場約¥1,300 コース約¥4,000 G科目 対面 クラブは、身長に合わせたクラブを選択する
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)ゴルフの基本動作(グリップ、アドレス)を正確に行える。7番アイアンによるスイングが実践できる。 (2)7番アイアンを用いて穴あきボールにてフルスイングが実践できる。 (3)7番アイアンを用いてレンジボールにてフルスイングが実践できる。 (4)ピッチングウェッジを用いて10ヤードから20ヤードのアプローチショットが実践できる。 (5)ピッチングウェッジを用いて30ヤードのアプローチショットが実践できる。 (6)パターを用いて1メートルから3メートルの距離を打ち分けることができる。 (7)ピッチングウェッジを用いてミニコースをラウンドできる。 (8)近郊練習場にて、7番アイアン、ピッチングウェッジを用いて飛距離の打ち分けができる。 (9)ゴルフコースにて、7番アイアン、ピッチングウェッジ、パターを用いてラウンドできる。 (10)講義を通して、生涯スポーツの意義を理解する。
授業計画	第1週 7番アイアンを用いて、スイングの基本(グリップ、アドレス)の復習とフルスイングの確認 第2週 7番アイアンを用いて、穴あきボールによるフルスイングの実践 第3週 7番アイアンを用いて、レンジボールによるフルスイングの実践 第4週 ピッチングウェッジを用いて10ヤードから20ヤードのアプローチスイングの実践 第5週 ピッチングウェッジを用いて30ヤードのアプローチスイングの実践 第6週 パターを用いて1メートルから3メートルの距離の打ち分けの実践 第7週 ピッチングウェッジを用いてミニコースのラウンド実践 第8週 近郊練習場にて、7番アイアン、ピッチングウェッジを用いて飛距離の打ち分け実践 第9週 ゴルフコースにて、7番アイアン、ピッチングウェッジ、パターを用いてラウンド実践 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	

成績評価方法	1技能35% 2知識・理解30% 3態度・意欲35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察記録を行うとともに、授業での学びの予習・復習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	"テレビでのゴルフ試合観戦。 新聞や雑誌のゴルフに関する記事の閲読。" 印刷した資料を配布する
オフィスアワー等（連絡先含む）	shiraki.hitoshi.fw@u.tsukuba.ac.jp shiraki.hitoshi.fw at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	クラブは、身長に合わせたクラブを選択してもらう。 単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。近郊練習場での打撃練習時に費用が約¥1,300、ゴルフコースでの実習費用が約¥4,000かかります。 レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	コミュニケーション，運動習慣，スポーツ文化，倫理観，スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育サッカー(秋)
科目番号	2213273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	成瀬 和弥
授業概要	様々なゲームを通して基本的な戦術、ポゼッションプレーを理解し、集団行動・フォーメーションを成熟させていく。
備考	男女別要素(接触) 男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 対面 短期留学生が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。
授業計画	サッカー(フットボール)は世界共通の文化である。本授業では、初心者でも十分に楽しめるよう配慮しながら、ゲームを中心に行い、サッカーの深遠な魅力を体感する。 第1週 目的に合わせたゲーム形式の練習を行う:パス 第2週 目的に合わせたゲーム形式の練習を行う:ポジショニング 第3週 ルールの確認 第4週 練習試合 第5週 リーグ戦1(試合の運営方法) 第6週 リーグ戦2 第7週 リーグ戦3 第8週 リーグ戦4 第9週 リーグ戦5 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	1技能35% 2知識・理解30% 3態度・意欲35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	サッカーを中心にさまざまなスポーツのゲームを観戦するとともに、スポーツを取り扱った映画や本などに親しむ。 健康観察記録を行うとともに、授業での学びをmanabaでレポートする。
教材・参考文献・配付資料等	授業時に関連する資料を配布する。
オフィスアワー等(連絡先含む)	木曜日2時限目 naruse.kazuya.gu at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	グラウンド用のシューズを必ず別途用意すること。なお、サッカーに適したシューズ(スパイクやトレーニングシューズ)が望ましい。 なお、取り替え式スパイクは使用禁止。 天候に合わせたウェアを着用すること。デニムやチノパンでの受講は禁止。

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。 レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	コミュニケーション，運動習慣，スポーツ文化，倫理観，スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育シューティングスポーツ(秋)
科目番号	2214273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	嵯峨 寿
授業概要	弓道の初歩的技術の習得と競技会体験などを通してスポーツの文化的、社会的、倫理的価値や精神的効果について理解を深めます。
備考	男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 対面 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の7日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)お互いが安心して授業に臨めるよう、用具の取り扱いや自らの行動と生活に十分注意することができる。 (2)スポーツにおける弓矢の安全な使用方法を修得し、身体を用いてそれを表現できるようになる。 (3)チーム間の対戦ゲームにおいて、仲間と相手の存在を尊重し、協力と感謝の気持ちを表す方法を修得できる。 (4)セルフジャッジに臨んでは、所定の規則に基づき、正確な判断・採点をすることができる。 (5)ルールを色々と改変しながら、独自の競技方法や大会運営の仕方など色々と考案できる。
授業計画	秋学期は弓道の初学者を想定した授業である。近距離(5m~10m位置)からの発射が中心となるため春学期同様「青空教室」となる。なお雨天時の学習は教室ほかでの学習となる。 第1週 弓道場で厳守すべき、安全安心のためのきまりや振る舞い方、道具の選定や取り扱いについて理解する 第2週 矢の番え方を修得し、発射の体験する 第3週 弓道における足踏とは何かを知り、体現する 第4週 角見のはたらきを理解し、体得をめざす。残心の必要を知る 第5週 取懸(馬手=右手の正しい使い方)を習得する 第6週 弓手=左手の正しい整え方”手の内”を習得する 第7週 弾(ゆがけ)の付け方を習得し、使用に慣れる 第8週 照準器のない弓道用の弓での狙いの付け方を学ぶ 第9週 実技の到達度を確認する実技検定を行う 第10週 講義 第11週 予備日 運動が苦手、下手だと感ずる人には、高校までの体育にはない新しい種目にぜひ挑戦して下さい。初心者どうしお互いに教え合い、励まし合いながら学びます。弓矢を用いた競技を春秋を通じて体験しながら、スポーツにみられる文化的特性が理解できます。
履修条件	殺傷力のある道具を用いるため、自己管理と他者への配慮などを十分に行えること。

履修条件	原則として、今年度の春学期「シューティングスポーツ」の単位取得者に限る。なお、昨年度以前に取得した春学期の単位にプラスし、今年度に本授業を受講する人は担当教員に事前に申し出ること。
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35% 技能および知識・理解、態度・意欲の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察とともに、授業で指示された課題について予習・復習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	授業の進行に応じ適宜紹介する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	金曜日16時から18時  随時メールにてアポを取った上で来室ください 体育科学系棟B504研究室 029-853-2629 <a href="mailto:saga.hitoshi.fu@u.tsukuba.ac.jp">saga.hitoshi.fu@u.tsukuba.ac.jp</a>
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。 レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。 弓、矢、弦、的などの消耗品の購入代として500円徴収します。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	なし
キーワード	コミュニケーション、運動習慣、スポーツ文化、倫理観、スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育柔道(秋)
科目番号	2215273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	松井 崇
授業概要	柔道の文化的特性を理解し、基本的な技術を習得して攻防ができるようにする。柔道を通じて体力を養い、他のスポーツにも応用できるバランス感覚や巧緻性などを習得する。
備考	男女別要素(接触) 男女別要素(その他) G科目 対面 道着の下にTシャツの着用可 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)受身の方法を理解し、色々な動きの中で安全な倒れかたができる。 (2)施技の動きを相手との関連で適用できる。 (3)相手と協力しながら、安全に相互の動きを実施できる。 (4)技の稽古を通して心身を健康に保つ方法を学び、実践できる。
授業計画	第1週 既習技の復習 第2週 足技、乱取（立ち技、寝技） 第3週 足技、乱取（立ち技、寝技） 第4週 腰技、関節技、乱取（立ち技、寝技） 第5週 腰技、関節技、乱取（立ち技、寝技） 第6週 腰技、関節技、乱取（立ち技、寝技） 第7週 手技、乱取（立ち技、寝技） 第8週 ルール、乱取（立ち技、寝技） 第9週 柔道の知識、乱取（立ち技、寝技） 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。それぞれの割合は、技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35%とする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察を行うとともに、授業での学びの予習・復習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	matsui.takashi.ga@u.tsukuba.ac.jp

<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	<p>道着の下にTシャツ着用可。  レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用すること。  単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。</p>
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）</p>	<p>ティーチングアシスタント（TA）：1名</p>
<p>キーワード</p>	<p>コミュニケーション，運動習慣，スポーツ文化，倫理観，スポーツマンシップ</p>

授業科目名	応用体育ソフトボール(秋)
科目番号	2221233
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	奈良 隆章
授業概要	ソフトボールの技術構造や戦術について理解を深め、作戦や状況に応じた実戦的な技能を高める。また、チーム練習やリーグ戦を通して仲間との協調性やリーダーシップを身につける。
備考	男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める  (1)ソフトボールの基礎的な技術を身につけ、仲間と共に課題に挑戦できる (2)チームプレーの価値を理解し、他者との協力の中で自身の長所を發揮できる (3)体育・スポーツの意義や価値を理解できる
授業計画	第1週 オリエンテーション、ダブルプレー 第2週 内野ノック、練習試合1 第3週 ピッチング、野手間フライ、練習試合2 第4週 ピッチング、ランダウンプレー、練習試合3 第5週 ピッチング、練習試合4 第6週 内野バックホーム、リーグ戦1 第7週 打撃練習、リーグ戦2 第8週 チーム練習、リーグ戦3 第9週 講義 第10週 プレーオフ 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業内の活動記録を作成し、manabaを通じて提出する。
教材・参考文献・配付資料等	1. 丸山克俊,成美堂出版,わかりやすいソフトボールのルール
オフィスアワー等(連絡先含む)	奈良 隆章 木曜日10時30分から11時30分 体育科学系A棟 405 nara.takaaki.gp@u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とします。レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション、運動習慣、スポーツ文化、倫理観、スポーツマンシップ、ライフスキル、自己開示、他者協力

授業科目名	応用体育卓球(秋)
科目番号	2222253
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	安藤 真太郎
授業概要	スポーツ活動に関する知識の深まりとともに、活動の成果を享受する能力を高める。 様々なスポーツシーンに関係する技術を理解した上で、ゲーム・技術練習共に、より多様な形態で実施し、ゲームスポーツに関する自由な発想を育てる。
備考	男女別要素(接触) G科目 実務経験教員 対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)卓球の競技特性を理解し、適切な課題解決ができる。 (2)仲間とコミュニケーションを取り、適切なスポーツ行動ができる。 (3)ラリーを続け、楽しむことができる。 (4)集団の特徴に応じて、自身の役割を考え、行動に移すことができる。 (5)卓球を通して心身を健康に保つ方法を学び、実践できる。
授業計画	第1週 打球技術の理解と発展、より進んだ空間的認知を伴うフォアハンド 第2週 距離的条件を変えたプレー、正確な空間認知と速い動作の両立 第3週 グリップワークの発展、道具を手で操作するスポーツの理解 第4週 フットワークの理解と発展、広範囲の移動 第5週 競技経験者と初級者が一緒に参加するゲームの設定法 第6週 団体戦ゲーム、個人競技に置ける団体戦形式のあり方に関する理解 第7週 卓球を利用したスポーツレクリエーションの企画・運営について 第8週 用具条件への適応 第9週 講義 第10週 用具条件への適応と発展 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業で興味関心を持った内容について、自発的に学習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	1. 日本卓球協会,卓球コーチング教本
オフィスアワー等(連絡先含む)	特に定めない。研究室訪問する場合は、あらかじめメール等で連絡を取ること。 ando.shintaro.fu at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	受講にはインドア用シューズは必携。服装はスポーツウェア。 経験者の受講を妨げないが、本科目は初心者重視の内容となっている。 単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	コミュニケーション，運動習慣，スポーツ文化，倫理観，スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育ダンス(秋)
科目番号	2223273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	平山 素子
授業概要	「身体を使う・創造する」段階では、様々なジャンルのダンスにチャレンジすることでダンス文化の多様性や、現代性を再認識する。さらに、自らの身体を使ってオリジナルのダンス作品を制作し、身体から発信される多彩な表現世界を楽しむ。
備考	男女別要素(接触) G科目 対面 短期留学生が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)ダンスの多様性や、価値を理解する。 (2)自らの身体から発信される情報に興味を持つ。 (3)仲間と協力しながら、楽しく安全に運動を実施できる。
授業計画	「身体を使う・創造する」をキーワードに多様なダンス文化を体験、自らが創造する準備をしていく 第1週 ボディリセットプログラム ストレッチポールを使用した身体調整法を体験する 第2週 マイケル・ジャクソン 「スリラー」を通して伝説的なダンス文化の流行を体験する 第3週 バレエ 西洋舞踊文化の体験 第4週 モダンダンス 発祥から現在に至る経緯を整理し、自らの身体で自由な創造を体験する 第5週 ジャズ 劇場型の洗練された振付ダンス文化の体験 第6週 グループ創作1 自らテーマを以て身体表現に臨む準備 第7週 グループ創作 2 自らのイメージの共有、マネージメントなどを体験しながら作品旁に向かう 第8週 グループ創作3 アイデアを巡らせながら、作品を完成形に近づける 第9週 発表会 実演と鑑賞をセットに、舞踊文化についての知識を深める 第10週 講義
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する
学修時間の割り当て及	健康観察記録を行うとともに、授業での学びをmanabaでレポートする。

び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	hirayama.motoko.fp@u.tsukuba.ac.jp hirayama at taiiku.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行うレポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	コミュニケーション，運動習慣，スポーツ文化，倫理観，スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育テニス(秋)
科目番号	2225213
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	前澤 かおる
授業概要	テニスのルールやマナー、基礎的な技術など、生涯スポーツとしてテニスを楽しむための知識や技能を総合的に学ぶ。主に、ダブルスのプレーを中心に扱うこととする。
備考	男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。
授業計画	第1週 サービス1 第2週 サービス1、スマッシュ 第3週 ストロークのゲーム中の活用、ダブルスのフォーメーション1 第4週 ボレーのゲーム中の活用、ダブルスのフォーメーション2 第5週 各種ストロークの復習1 第6週 各種ストロークの復習2 第7週 ダブルスゲーム 第8週 チーム対抗戦1 第9週 チーム対抗戦2 第10週 講義 第11週 スキルテスト
履修条件	
成績評価方法	技能：35%、理解・知識：30%、態度・意欲：35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	技術習得にはイメージを得ることも重要であるので、メディアなどでテニスに触れることが望ましい。
教材・参考文献・配付資料等	必要に応じてプリントを配布する。
オフィスアワー等(連絡先含む)	kaoru9hiyoko9@hotmail.co.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	初心者向けの授業である。テニスコートでは、テニスシューズを着用すること。服装はスポーツウェアを基本とする。雨天等の理由でコートが使用できな場合には講義等を行う。受講生の技術習得状況により、授業内容を一部変更する場合がある。単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。 レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチング	

アシスタント (TA)	
キーワード	コミュニケーション、運動習慣、スポーツ文化、倫理観、スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育トリム運動(秋)
科目番号	2230273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	齊藤 まゆみ
授業概要	体育を履修する上で心身のコンディショニングの理由から積極的に身体を動かすことができない学生を対象に開講する。学習内容は健康・体力に興味を持てる態度を形成することを目的とし、受講生のコンディションにあわせた教材を用意したい。秋学期では、春学期の状況を踏まえて発展的に授業内容を検討する。
備考	1階トリム運動室 G科目 実務経験教員 対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。自分の身体への気づきや洞察を深めること。 (1)スポーツ場面での自己のニーズを知り、それに合わせた変更・調整ができる(アダプテッド)。 (2)仲間と協力しながら課題を解決することができる。
授業計画	授業内容は、以下の通りですが、受講者の体調を考慮して内容を変更することもあります。障害者スポーツ指導員としての専門的スキルをもつ教員が個別のニーズに対応した授業を行います。 第1週 授業概要の説明：アダプテッド 第2週 テーブルテニス 1 第3週 テーブルテニス 2 第4週 テーブルテニス 3 第5週 タウンハウス 1 第6週 タウンハウス 2 第7週 囲碁ボール 1 第8週 囲碁ボール 2 第9週 ふりかえり 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	1技能35% 2知識・理解30% 3態度・意欲35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業で提示された課題・健康観察を実施し、manabaで提出する。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	月曜5限 mayumi-saito.gp at u.tsukuba.ac.jp

<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	<p>履修者の状況に合わせて柔軟に対応します。            単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。            「レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。」</p>
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）</p>	
<p>キーワード</p>	<p>コミュニケーション，運動習慣，スポーツ文化，倫理観，スポーツマンシップ</p>

授業科目名	応用体育ニュースポーツ(秋)
科目番号	2233233
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	永田 真一
授業概要	既成のスポーツ競技や種目にとらわれることなく、大学生によって新たに開発されたスポーツ種目のフライングディスク競技やあまり一般的には知られていないスポーツ種目(ユニホック、グランドゴルフなど)を体験する。また、昔から受け継がれている世界各国の伝統的なスポーツ種目(インディアカ、ペタンク、綱引き)についても改めて体験してその楽しみについて再考する。さらに、これらの実践を通して、基礎体育で養った自分の体力に応じた「新たなスポーツ」を楽しむ方策などを見つけ出し、スポーツそのものに対する自分の価値観について考えてみる。
備考	単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上のものとする 男女別要素(接触) G科目 対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 ----- (1)フライングディスクの特性を理解し、適切に利用できる。 (2)スティックを使って仲間へパスが打てる。 (3)仲間と協力しながら、楽しく安全に運動を実施できる。 (4)ニュースポーツを通して心身のリフレッシュ方策を実践できる。
授業計画	第1週 授業内容の説明・導入 第2週 ディスクタイプのニュースポーツ・フライングディスクの導入 第3週 フライングディスクの投げ方・バックハンドスロー 第4週 フライングディスクの投げ方・フォアハンドスローなど 第5週 フライングディスクを使用した種目の紹介 第6週 ゲーム形式のニュースポーツ・ユニホックの導入 第7週 ユニホックの基礎技術・パス、ドリブル、ヒット 第8週 ユニホックのゲームを楽しむ 第9週 グループ対抗戦 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察記録を行うとともに、授業での学びの予習・復習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	

オフィスアワー等（連絡先含む）	メールにてアポイントメントをとってください GSI410 nagata.shinichi.gm at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。 レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	コミュニケーション、運動習慣、スポーツ文化、倫理観、スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育バスケットボール(秋)
科目番号	2234253
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	坂本 拓弥
授業概要	バスケットボールの特性を理解し、バスケットボールの個人戦術、グループ戦術（カットプレイ、スクリーンプレイ）を習得し、個人戦術、グループ戦術を活かしたゲームができるようになる。
備考	男女別要素(用具) 男女別要素(接触) G科目 対面 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1) バスケットボールの特性を理解し、バスケットボールの個人及び集団技能を活かしたゲームができるようになる。 (2) チームメイトと協力して、ゲームプランを計画し実践することができるようになる。 (3) ゲームのスムーズな運営方法（審判法やスコアの記録等）を理解し、協力して実践できるようになる。 (4)バスケットボールの実践を、日常生活を豊かにする活動として位置づけることができるようになる。
授業計画	第1週 オリエンテーション（含春学期の復習） 第2週 基礎技術の確認：シュート・パス・ドリブル 第3週 対人技術の確認：1対1、2対1 第4週 グループ戦術：3対2、3対3 第5週 グループ戦術：スクリーンプレイ 第6週 グループ戦術：セットプレイ 第7週 グループ戦術を活かしたゲーム：ハーフコート 第8週 グループ戦術を活かしたゲーム：オールコート 第9週 トーナメント形式のゲーム 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	毎回の授業において記述する各自の課題を踏まえて、それに取り組むための方法を次回授業までに各自で調べ、準備する。その際、バスケットボールに関する文献やネット上の情報など、複数のソースにあたって情報を収集することが望ましい。
教材・参考文献・配付資料等	資料等は、随時配布する。

オフィスアワー等（連絡先含む）	以下に連絡してください。 sakamoto.takuya.ga@u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。 レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	コミュニケーション、運動習慣、スポーツ文化、倫理観、スポーツパーソンシップ

授業科目名	応用体育バドミントン(秋)
科目番号	2235273
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	谷藤 千香
授業概要	バドミントンの習慣を形成し、自らの意志でバドミントンと係わることの楽しさを学ぶ。
備考	男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 対面 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)バドミントンの特性を理解し、適切にプレイできる。 (2)仲間と協力しながら、楽しく安全に活動できる。
授業計画	バドミントンの基礎的技術を習得し、自分自身の能力を最大限活かしたゲームを展開できるようにする。また、クラス全体で楽しい大会運営ができるよう、他者等の関係を学習する。 運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 第1週 各種フラインクの精練 第2週 強打のためのラケット操作、身体操作の学習 第3週 移動を伴ったシャトルのコントロール (1) 第4週 サービスの工夫 第5週 ルールの理解と審判法の学習 第6週 移動を伴ったシャトルのコントロール (2) 第7週 ダブルスにおけるフォーメーションの学習 第8週 試合の運営 (1) 第9週 試合の運営 (2) 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	1技能35% 2知識・理解30% 3態度・意欲35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	毎回授業後3日以内に授業での活動記録レポートを、それぞれmanabaで入力のこと。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	tanifuji@faculty.chiba-u.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意)	一流プレイヤーの試合等を観戦することを勧める。 屋内用運動靴と運動に適した服装で活動すること。

点等)	単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。 レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー （TF）・ティーチング アシスタント（TA）	
キーワード	コミュニケーション，運動習慣，スポーツ文化，倫理観，スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育ハンドボール(秋)
科目番号	2237253
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	榎 浩輔
授業概要	チーム内での個々の役割について考え、チームスポーツを楽しむ能力を身につける。
備考	男女別要素(用具) 男女別要素(接触) 男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)ハンドボールのルールを理解し、適切なプレーできる。 (2)チームメイトや相手チームの選手の動きや状況を感じながらプレイできる。 (3)仲間と協力しながら審判の指示に従い楽しく安全にゲームを楽しむことができる。 (4)ハンドボールを通して、心身を健康に保つ方法を学び実践できる。
授業計画	第1週 チーム決め、基礎スキル(ボールコントロール、パス、ドリブル)の復習、ゲーム 第2週 基礎スキル(ボールコントロール、パス、ドリブル、シュート、フェイント)、グループのディフェンスタクティク(インターセプト)、オープンディフェンスの紹介、ゲーム 第3週 基礎スキル(ボールコントロール、パス、ドリブル、シュート、フェイント)、アタックポジション解説、ウィングシュートテクニック、ゲーム 第4週 基礎スキル(ボールコントロール、パス、ドリブル、シュート、フェイント)、グループのディフェンスタクティク(スィッチ)、ゾーンディフェンスの紹介、ゲーム 第5週 基礎スキル(ボールコントロール、パス、ドリブル、シュート、フェイント)、グループのディフェンスタクティク(数的少数状況)、ゾーンディフェンスの紹介、ゲーム 第6週 基礎スキル(ボールコントロール、パス、ドリブル、シュート、フェイント)、アタックテクニック(パラレル)、ゲーム 第7週 基礎スキル(ボールコントロール、パス、ドリブル、シュート、フェイント)、ピボットプレーヤーの基礎的なスキルとタクティク、ゲーム 第8週 リーグ戦における戦い方 第9週 リーグ戦における戦い方 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	日頃から自身の健康観察記録を行う。You Tube等を利用し、ハンドボールのゲームを視聴して、イメージトレーニングをはかる。
教材・参考文献・配付資料等	ハンドボール大事典：国際ハンドボール連盟公式コーチング教本
オフィスアワー等(連	yamada.eiko.ga@u.tsukuba.ac.jp

絡先含む)	火曜10:00~11:30
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	<p>単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。</p> <p>manabaを利用してハンドボールのルールテストを行います。最優講義のレポートも評価の対象となります。</p> <p>レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用すること。</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	コミュニケーション, 運動習慣, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, プレイアブル, 状況判断, グループ戦術

授業科目名	応用体育フィットネストレーニング(秋)
科目番号	2240213
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	谷川 聡
授業概要	心身の健康維持・増進や生活習慣病の予防と運動・体力の関係を理解した上で、レジスタンストレーニング、ジョギング、ストレッチングを豊かなスポーツ文化として日常生活の中で応用することをめざす。
備考	男女別要素(接触) 男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 実務経験教員 対面 短期留学生在が受講を希望する際は、原則初回授業の3日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得る事
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5.心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6.協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 (1)無酸素運動/有酸素運動の理解と実践 (2)個々のトレーニング効果の主観的/客観的指標づくり (3)個々の合目的なトレーニングの作成
授業計画	基本的な筋力トレーニングおよびエアロビクトレーニングの仕方を科学的視点から自分の身体を理解し、トレーニングを実践することができるようにする。また、自分の特性に合わせてトレーニングを計画・実行することで日常におけるトレーニングの必要性を理解する。 専門的なトレーニングについても概説する。 第1週 パーソナルトレーニングの目的と計画 第2週 パーソナルトレーニングの立案 第3週 パーソナルトレーニングの実践(有酸素トレーニング) 第4週 パーソナルトレーニングの実践(無酸素トレーニング) 第5週 パーソナルトレーニングの見直しと実践 第6週 パーソナルトレーニングと日常生活 第7週 パーソナルトレーニングの修正 第8週 パーソナルトレーニングのまとめ 第9週 パーソナルトレーニングの自己評価 第10週 講義 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	技能35%、知識・理解30%、態度・意欲35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業ごとに1週間の運動記録を報告させる。
教材・参考文献・配付	

資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	tanigawa.satoru.gb@u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>ジャージや運動靴、室内シューズを用いること(ジーパンや革靴は不可)</p> <p>単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。</p> <p>レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	コミュニケーション，運動習慣，スポーツ文化，倫理観，スポーツマンシップ

授業科目名	応用体育野外運動(秋)
科目番号	2245213
単位数	0.5 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	秋AB 木3
担当教員	高橋 達己
授業概要	秋学期の授業では、キャンプのための技術（火おこし、野外炊事（昼食づくり）、ロープワーク、タープテント設営等）について実践的に学修し、実際にデイキャンプを体験する。日程は、11月22日（土）午前を予定している。したがって、授業時数については、調整する。
備考	男女別要素(接触) 男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G科目 対面
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	5.心身の健康と人間性・倫理性に関連する 6.協働性・主体性・自律性に関連する
授業の到達目標（学修成果）	運動習慣を定着させ、スポーツ文化に対する理解を深める。 1)野外運動・キャンプの理解を深める。 2)野外運動・キャンプの技術を修得する（ロープワーク・火起こし、野外炊事など）。 3)野外運動・キャンプを通じて自然環境の価値について考えることができる。 4)野外運動・キャンプを楽しむことができる。
授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週 キャンプ技術（1）ロープワーク 第3週 キャンプ技術（2）タープテント 第4週 キャンプ技術（3）火おこし 第5週 キャンプ技術（4）湯沸かし 第6週 キャンプ技術（5）グループで野外炊事のメニューを考える 第7週 Day Camp（集中 11月22日（土）8：40～11：25 第8週 ・タープテント設営 ・野外炊事コンテスト 第9週 講義 第10週 確認テスト・フィードバック・振り返り・授業評価 第11週 予備日
履修条件	
成績評価方法	1技能35% 2知識・理解30% 3態度・意欲35%により評価を行う。本時の学修目標について評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実技・体験（90%）、演習（10%）。授業について感じたこと、考えたことを復習すること。また、翌週の活動内容についてWebなどを活用して予習すること。
教材・参考文献・配付資料等	1. 日本野外教育研究会編, キャンプテキストーその考え方と実践
オフィスアワー等（連絡先含む）	特に定めないが、事前に連絡してから訪問してください。 takahashi.tastuki.gw at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	主体的に学び、考え、行動して下さい。 単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。 レポートを作成時には、教育における生成 AI 活用のガイドライン（学生向け）を参照

<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	<p>し、適切に活用してください。生成 AI による提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。</p>
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）</p>	
<p>キーワード</p>	<p>コミュニケーション，運動習慣，スポーツ文化，倫理観，スポーツマンシップ，調べ学習，課題解決</p>